

---

# NightFlight ヤカンヒコウ

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

N i g h t F l i g h t ヤカンヒコウ

### 【Nコード】

N 6 8 3 2 A

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

僕は死について考える時、いつも「塔」のことを思い出す。頭で読まないでください。それだと面白くないと思います。

急に世界が暗くなった。

水？

なんだろう？

僕は混乱していた。

もう何年も、こんな感覚に陥ることはなかった。

視界が暗転したのは、僕が目を瞑ったからだ。

僕は、なぜ泣いているのか。

泣いている自分に混乱した。

あれは随分、前の事だった。

夜になると

「塔」

のことを思い出した。

三本の塔が仲良く、あるいは窮屈そうに肩を寄せあっている風景だ。

僕の故郷には、およそ人工的な建造物はなかった。

馬小屋みたいな家が三つ四つ集まった集落だ。

僕は、そこで産まれた訳ではないらしく、どういう経緯で僕が、その村で育てられるようになったのかは知らない。

最初に、気付いた時にはもう、

「塔」

は存在していた。

誰も、

「塔」

があることに違和感を感じてはいなくて、生活の中に溶けこんでいた。

しかし、その

「塔」

が直接、村に利害をもたらすわけではなかった。

それでも、その

「塔」

があることに誰も疑問を持たなかった。

僕ら、子供は何故

「塔」

があるかをコツソリ話し合った。

なぜか、それを大人達に聞いてはならない気がしていた。

その内、誰もその話題に触れなくなって、それはタブーなんだと僕

らは理解した。

それから月日が経って、僕が空を飛び始めた頃。

その村が空襲にあった。

僕が知ってる限りでは、そこは重要な拠点ではなかったはずだ。

どこか、別の大きな町を襲った帰りに機体を軽くするために、爆弾を捨てていったのだろう。

僕はその情報を新聞あるいはラジオで得た時、村の人達の事を思い出そうとした。

でも、その時思い出せたのは、夜になると青白く発光する三本の「塔」

の風景だけだった。

「塔」

の事を思い出す時、僕はよく、死について考える。

突然、なんの前ぶれもなく死んだ村の人。

悲しかったのだろうか。今はもう、遠い昔の事のように顔も思い出せない。

ただ、三本の塔だけが、僕にその当時を思い出させた。

泣いたのは、その夜一回切りだった。

それから何度も、

「死」

というものについて考えなくてはならなくなった。

でも、涙は流れなかった。それは一回切りの事だった。

でも、僕は今また、涙を流している。

そしてやっぱり

「塔」

の事を考えているのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6832a/>

---

NightFlight ヤカンヒコウ

2010年11月22日15時05分発行